

令和2年 第1回 8月近江八幡市教育委員会定例会(要旨)

1. 開催日時 令和2年8月24日(火) 午前9時00分～14時35分

2. 開催場所 文化会館2階 会議室2

3. 出席委員

教育長	日岡 昇
教育長職務代理者	久家 昌代
委員	八耳 哲也
委員	安倍 映子
委員	西田 佳成

4. 事務局出席者

教育部長	西川 仁司
教育部次長兼教育総務課長	秋山 直人
教育部次長兼学校教育課長	森 茂次
学校教育課参事	宮川 拓也
学校教育課指導主事	西内 由起子
学校教育課指導主事	小崎 美香
教育総務課課長補佐	畑 明宏
教育総務課副主幹	澤 千央

5. 会議を傍聴した者 5人

6. 会議次第

【議案】

○議第46号 令和3年度から使用する中学校教科用図書および小・中学校特別支援学級教科用図書の採択につき議決を求めることについて

7. 議事の経過

(1)開会(日程確認)

- ・教育長が第1回8月定例会の開会を宣言
- ・出席委員定数の確認

教科用図書ごとにタイムスケジュールに沿って進める。

滋賀県教科用図書第3採択地区協議会に出席した学校教育課参事より説明。
資料の訂正。(差替文書)

(2) 議事

◆中学校教科用図書「道徳」

【事務局説明…学校教育課】

中学校道徳では7社の検定教科用図書があります。日本教科書の見本本はありません。調査研究部会からは、資料にありますように、「日本文教出版 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

もっとも評価の高かった 日本文教出版 については、現代的な課題に関する内容が多く、教材のあとには、その内容を充実させるためのコラムが多数掲載されています。

例えば1年の 26 ページ、40 ページでは考え・議論するため役割演技が、102 ページや 158 ページでは話し合い活動などの学習形態が具体的な例をあげながら掲示してあります。考え・議論する道徳に対応しています。

また、各教材が見開きで始まり見開きで終わりになっていて、1時間の教材に集中しやすいことも特徴です。

さらに、道徳ノートが別冊であり、1時間ごとのワークシートが使いやすいものになっています。現在使用している道徳ノートは、発問の記入があり、授業者にとっては使用しにくさを感じることもあったようですが、今回はあえて発問を記入していないため、授業者によって柔軟に活用できると思います。2年コラム欄 44 ページに近江学園設立者の糸賀一雄(いとがかずお)さんについてふれてあります。3年 126 ページに『「川端」(かばた)のある暮らし』として、高島市の水路「川端」を自然との共生を学ぶ教材として掲載してあります。

2番目に評価の高かった東京書籍の特徴は、話し合い活動を重視している点です。巻頭には「話し合いの手引き」(各学年3ページ)を掲載し、話し合い活動の方法について丁寧に説明することで、具体的な活動に結びつけやすくなっています。学年ごとに、実際の活動例も取り上げてあります。また、付録として巻末にある「心情円」や「ホワイトボードシート」も、自分の意見をまとめたり、話し合い活動をすすめたりすることに有効だと考えられます。

しかしながら、観点⑤において付属資料などが充実しているものの、日本文教出版の各教材が見開きで始まり見開きで終わりになっていることや道徳ノートが別冊であることなどに比べると評価はBとなり僅差ですが、東京書籍は2番目の評価となりました。

また、教育出版は、各教材が適正な、分量・内容になっており、教材末の「学びの道しるべ」には、自分ごととして考えられるような良い問いがありました。

しかしながら、全体的に平均的な印象で観点別で A 評価となるところがありませんでした。

その他の4社については、それぞれに良い点はありましたが、観点別に C 評価があり

授業を進める上では適当でないと判断しました。

見開きで始まり終わり見やすいのは、教出、光村、日文。

過去を振り返る場面で間があるのは、東書、教出、光村、日文、日科。

語句の注釈があるのは、東書1か所、教出6か所、日文5か所、学研5か所、あかつき7か所、日科1か所となっており、教材として見やすくなっているのは、教出と日文です。

ただ、教出は、大切な意味をもつ手紙のところではフォントが小さくなっています。この手紙は大事な意味をもつものなので、フォントの種類をかえたほうがよいと思います。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「日本文教出版 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○教育長

観点①～⑥。については、資料【教科用図書採択方針観点に立っての評価】で確認してください。

○八耳委員

どの出版社もしっかり吟味されたものである。道徳は、決めつけるものではなく、正解がない。自主的に活動しながら、自分の思いをまとめていくものである。日本文教出版については、道徳ノートを自分で作っていくことで、教育的課程が位置づけられている。人との出会いの中で自分を高めたり、学校で友達、先生とだけでなく、一番身近な家族と一緒に考えていくことができる。保護者の欄もあることも評価できる。温かみのあるイラストもよかった。これらの理由により、日文がよい。

○安倍委員

中学校で道徳を学ぶことは、子どもたちが、世の中の社会の入り口に立つということであり、大人が責任をもってしっかりしていかなければならないと思いながら見させていただいた。

道徳科については、いじめ問題がスタートであったことから、いじめ問題をどのように捉えていくのかについては、日本文教出版が最も優れていると思われる。

これらの教材から、何を学び、自分のものにしていくのか。見て見ぬふりをしないなど、どう自分から発信していくのか。道徳ノートは、親、学校、自分という3つの関係の中で生かされるノートであると感じた。

また、授業者によって柔軟に活用できると事務局の説明にあった。いじめは教科書だけで学ぶ問題ではないが、このノートをいかに生かしていくのかという視点をもって活用することが大事だと感じた。

日本文教出版は、いじめと障がいの問題、社会でどう生きていくかなど、項目別に表

している。この表し方が発達年齢に応じて学ぶべき内容がよくわかる。日本文教出版がよい。

○西田委員

各出版社の内容は良かった。日本文教出版については、SDGs、キャリア教育などを積極的に取り入れられている。後々振り返るためにも道徳ノートがある点においても、日本文教出版がよい。

○久家委員

日本文教出版の道徳ノートが良いと思った。開いたところのページの印象が非常に良かった。

○教育長

日本文教出版の良さはイラストの表情が内容や心の動きに合うという意見があった。

【採 決】

道徳科は、日本文教出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成（5人）

◆中学校教科用図書「国語」

【事務局説明…学校教育課】

中学校国語では4社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「三省堂 現代の国語」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

まず、三省堂の教科用図書です。

1年の18ページをご覧ください。この教科用図書の最大の特徴である「学びの道しるべ」と「思考の方法」、「語彙を豊かに」が見開き1ページにまとめられています。これは、各教材の後についていて、学習の見通しが持てるようになっています。今回の改定で、目標を記載し、つきたい力を明確化し、学習の過程から、振り返りまで、キーワードを挙げてヒントを出しながら、自主的に学習が進められるように構成されています。また、「思考の方法」のコーナーでは、新学習指導要領の改訂のポイントの一つである「考えの形成」に関する指導がスムーズに行くよう工夫されています。さらに「語彙を豊かに」を配置することにより、確かなことばの力、語彙力を身につける工夫がなされています。すべての教科における資質・能力の育成や、学習基盤となる言語能力を支える重要な要素である語彙力の育成については、新学習指導要領改訂の大きなポイントの一つでもあります。

では、40ページをご覧ください。3年間で22の読み方指導を設定してあります。この40

ページは、44 ページからの「クジラの飲み水」という説明的文章を正確に読み解き、深く読み味わうための読み方をプレ学習としてわかりやすく示したものです。特に説明的文章においてのプレ教材は確かな読み方を身につけるのに有効であると感じました。

49 ページをご覧ください。各教材の最後にある「私の本棚」では、単元に関わる本の紹介がされており、また、92 ページでは「私の読書体験」にはテレビなどで活躍されている著名な作家のコラムが掲載され、興味関心を広げています。

最後になりますが、249 ページ「読書の広場」と 135 ページ「古典教材」には二次元コードがつけられており、発展的な内容を参照したり、今までに習ったことを他の作品へ読み広げる工夫がなされていますが、最小限にとどめられています。

次に、2番目に評価の高かった光村図書の教科用図書についてです。1年の 9 ページをご覧ください。各学年とも同じなのですが、巻頭に「思考の地図」を配置し、思考ツールや情報の可視化の方法を示し、課題解決への道筋が示されています。光村では、「思考のレッスン」や「情報整理のレッスン」という教材を、定期的に組み入れ、よくまとめてあり、丁寧な作りで使いやすい形ですが、活動が少し多めになるので、すべてこなせるかどうかは課題です。

次に、12 ページをご覧ください。ここには、小学校から中学校へのスムーズな移行ができるように、工夫されています。続いて 50、51 ページをご覧ください。生徒の主体的な学びのために、見開きページで「見通しをもつ」から「振り返る」までの学習過程がひと目でわかるように示され、自分の考えを確立し、根拠を明確にして書いたり話したりできるように工夫しています。また、「学習の窓」では学習のポイントを図解してわかりやすく示していると同時に、「深い学び」へ導く具体的な手立てが示されています。さらに、振り返りのところでは、「何ができるようになったか」を自分の言葉で書く設問がされています。これも、活動としては多く、すべてこなせるかどうかは課題です。

続いて、東京書籍の教科用図書についてです。

第1学年の 28 ページには、各教材で身につけたい力を「言葉の力」という囲みで生徒にわかりやすく明示し、指導事項が3年間で系統的・段階的に積み上がるように配置されています。29 ページには、本教科書の最大の特徴の「学びの扉」が単元ごとにあり、6人の生徒とコトノハという個性豊かな独自のキャラクターとマンガ風イラストをふんだんに使い、学びの要点がわかり、課題に気付き、「言葉の力」が身につく工夫がなされています。ただ実際に分かりやすいかどうかは、使い方次第のようです。

最後に、教育出版の教科用図書についてです。

まずは、1年 2 ページ 目次の読み物教材では、名作と呼ばれる作品が多く掲載されており、読み応えのあるものが多いと感じます。ただし、3作品を1年間に学習するのは多いのではないかと考えています。

1年 32 ページは、本誌の特徴の「学びナビ」です。教材の前に「学びナビ」を配置し、その教材で「何を学ぶか」を示し、見通しをもって学習が進められるように工夫してあります。ただし、記載内容が少し難しく、生徒の興味や関心を奪うものにならないような授業工夫が必要です。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「三省堂 現代の国語」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

国語科とは、読み解く力。市としても読み解く力の育成ということで、他の教科の基盤となる教科である。「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」運動の「ど」の読書の活動がうまくちりばめられているのが三省堂。資料と図書館との連携、学年ごとの巻末には文学はこのように読むということをコンパクトにまとめられ、読み解く力はこのように築いていくのだということがよく分かる。三省堂がよい。

○西田委員

三省堂には、つけたい力が明確に示されている。教師が伝えやすい＝子どもたちにも伝わりやすいのではないかと思う。

○安倍委員

ページを開くのがたやすいものと大変なものがある。子どもたちにとってのページのわかりやすさも大事である。量的なこともある。近江八幡市の子どもたちの課題である思っていることを言葉や文章で表していくという表現力や語彙力をしっかりつけていくにも三省堂が分かりやすい。部首の成り立ちもわかりやすい。読み書き障がいの子どもにもわかるよう視覚提示がされている。文章の中でも赤字にしてあるなど強調している部分もよくわかる。三省堂がよい。

【採 決】

国語科は、三省堂の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「書写」

【事務局説明…学校教育課】

中学校書写では4社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい書写」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

4社ともに、内容の組織・配列などに大きな差はありませんでしたので、細部で比較することが中心となりました。今回の教科書の特徴は、各社とも QR コードなどを利用したウェブサイトやデジタルコンテンツが用意されている点です。

もっとも評価の高かった、東京書籍をご覧ください。2 ページ「書写で学ぶこと」は、3年間の書写で学ぶことがとてもわかりやすく書かれており、3年間の書写の学習を見通

せるようになっていきます。10 ページの「基本の点画の書き方」では、イラストを入れ筆遣いの基本がわかりやすくなっています。ウェブサイト等、デジタルコンテンツについては、4社の中で最も充実しています。また、QR コード連動機能があるため、タブレットとの相性が良いと考えられる。1 ページ教科書の目次に QR コードがあり、それを読み取ると動画一覧ページに飛ぶことができ、そこで筆遣いを動画で確認できます。動画の説明がかなり丁寧です。

52 ページには、「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」「書写のかぎ」と学習に取り組む手順が示されており、生徒が学びやすくなっています。また、それらが右のページに手本が左のページに掲載されています。教科書全体がこのような形式になっており、生徒たちが学習に対して迷うことがないと思います。実際に毛筆の学習に取り組むときには、見開きの状態で学び教科書のポイントを押さえられるようになっています。その後、文字を書く場合には、左のページの手本に集中できるようになっています。

全体的に表現、表記、および資料、図表、写真、さし絵がすっきりと見やすく配置されておりわかりやすいです。生徒が視点を落ち着けて学習できるような創意工夫がされています。カラーユニバーサルデザインや、読みやすいフォントといった特別支援の視点から見た工夫が細部まで行き届いているように思います。

光村図書をご覧ください。特筆すべき点は、別冊の硬筆練習帳の「書写ブック」が別注文ではなく、標準で付属してくることです。これがあれば従来よりも効率的に書写の学習を進めやすくなりますが、生徒が紛失することも考えられます。この練習ブックについては、教員により様々な授業の進め方があると思われるので、必ずしもプラスとは言えないでしょう。

また、56 ページから等、朱書きで書かれてある部分では筆遣いが丁寧に表させておりわかりやすくなっています。67 ページ等に載っている筆脈は、毛筆(行書)では大変大事なポイントでそこをきちんと押さえています。

48 ページ「文字の歴史を探る」や 88 ページ「物語を千年書き継ぐ」のコラムでは、他社と比較すると写真なども小さく資料の部分でも少し弱く感じられました。

教育出版です。

6 ページに「姿勢と用具の使い方」の基本姿勢の写真がありますが、不自然に肘をあげている感じがします。この写真では、肘をあげることを意識させようとする意図を感じることができますが、教員による解説が必要になります。毛筆の手本が少ないように感じます。特に八つ切り半紙の手本が少ないように感じました。

三省堂です。

38 ページから 43 ページで行書を学んでいくのですが、44 ページから「毛筆で学んだことを硬筆に生かそう」の練習となります。しかし、行書のポイントを見ながら練習することができません。生徒が一回一回ページを移動しながら学習を進めていくこととなり効率的ではありません。毛筆の楷書、行書ともに少し手本が少ないと感じました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 新しい書写」の

教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

AI 時代だが、手書き文字を大切にしていくことの大切さや手本が分かりやすく書かれている。どこの子にもわかりやすい、ユニバーサルの観点からも大変工夫されている。

最初に、小学校の学習の振り返りという部分がある。コロナ禍では、各学校で格差があるかもしれないことも考え、基本をもう一度見つめ直しながら、丁寧に1年生からスタートできるようになっている学習スタイルは良いと思う。

○西田委員

東京書籍の10、11 ページに筆の使い方が記載されているが、表現がわかりやすい形で記載されている。娘にも好評であった。

○八耳委員

東京書籍は、常にどこを開いても書写である。どのページにも書写のイメージが含まれている。他社は、書写ではないページもあるように見受ける。厳選されたページ構成になっている。

○教育長

ICT 化が進む中で、書写が日本文化を継承する教科である。QR コードを活用しながら学習する一方で、子どもたちが日本の文化に触れあう大切な教科であると考え

【採 決】

書写科は、東京書籍の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書 社会科「歴史」

【事務局説明…学校教育課】

中学校社会歴史では7社の検定教科用図書があります。学び舎の見本図書はありません。調査研究部会からは、資料にありますように、「日本文教出版 中学社会 歴史的分野」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

観点①は、7社すべてにおいてB評価となりましたので、観点②から⑥について、もっとも高い評価となった日本文教出版と他社をくらべる形で説明させていただきます。

まず、観点②については、日本文教出版のみA評価としましたが、全体の構成が115時間で設定されており、余裕を持って授業を終わることができます。また、64・65・66・67 ページや 158・159・160・161 ページなど各編(各章)の最初に見開き大の資料があり、

次のページの見開きには「地図で見る世界の動き」を掲載し、学習内容の位置付け・概観ができるよう配慮されており、これは他社には無い工夫点であります。

一方、山川出版社では、1行の文字数が32文字で他社よりも多く、文字が小さい印象を受け、視覚的な支援の面では改善の余地があると考えました。

また、育鵬社では、20・21 ページのように各章のはじめに鳥の目「歴史絵巻」があり、親しみのあるイラストで歴史の流れを大観し、続いて 22・23 ページ虫の目大きな図版によって学習内容への興味付けや、時代の特色をつかめるよう工夫されているのですが、虫の目 22・23 ページについては、大きな文字の縦書きと横書きが混在し、太字の文章、細字の文章、様々なフォントがあって、全体として見づらい構成になっていると感じます。そして、「学び舎」では、造本が横幅は他社の教科書と同じですが、縦が4cm長く、全体に縦長の作りになっています。また、「主体的な学習を妨げる」として、あえて文字の太字表記をしていないのが特徴的ですが、重要な歴史語句は太字表記の方がわかりやすいと思われま

次に、観点③については、A評価とした日本文教出版では、防災・減災に関して 300・301 ページの「災害の歴史に学ぶ」、政治参加の持つ意味や意義について考える 302・303 ページの「政治参加の歴史に学ぶ」や、世界平和の実現について考える 304・305 ページの「世界平和への取組に学ぶ」などがあります。

また、伝統と文化、国際交流、産業の発展、災害復興、資源・環境、命の尊さに取り組んだ先人を紹介する 140 ページ、247 ページの「先人に学ぶ」や歴史の裏に隠れがちな女性の姿を紹介する 233 ページの「女性史コラム」があるなど、多くのことが取り上げられています。

同じくA評価とした帝国書院では、未来社会をつくるために必要な知識を紹介したコラム「未来に向けて」で、生徒が考えるように工夫しています。例えば、第2章中世の 91 ページでは人権について、第3章近世の 127 ページでは環境について、第5章近代の 245 ページの平和についてなど、随所にあります。

さらに、第6章の最後 286 ページには、多面的・多角的に構想する「未来に向けて」というページが設けられ、自身が考える現代の社会的課題を挙げ、時代の特色をまとめるとともに、様々な角度から課題解決への鍵を探るような活動を促しています。

次に、観点④については、A評価とした日本文教出版の第1編 12 ページでは、新学習指導要領に対応して、時系列・推移・比較・つながりという視点で学習を進めることが、「歴史的な見方・考え方」と説明しています。また、どの単元でもよいのですが、30・31 ページをご覧ください。各表題の横に学習課題と「見方・考え方」があり、文末の右下に学習の「確認」があり、本文を確認したうえでそれをもとに説明する言語活動にも利用しやすく設定されています。また、1単元毎に「深めよう」が設けられており、「なぜ」を発問して、問題解決的な考え方につながるようにしています。また、62・63 ページのように章末に「学習の整理と活用」があり、思考力や表現力をつけさせる工夫が見られ、また、「アクティビティ」でさらに学習が深められるように配慮されています。

同じくA評価とした東京書籍では、76・77 ページのように各単元の見開きの初めに

「学習課題」が提示され、終末に学習した歴史的事象を整理し、語句や字数を指定して説明を求めるなど、思考力・判断力・表現力を養う工夫がなされています。また、章ごとの「まとめ」96・97 ページでは、年表の穴埋め形式の問題やワーク形式の問題、その時代の特色を説明させる問題があり、さらに、Xチャートや 60 ページのくらげチャートや 146 ページのピラミッドストラクチャなどの思考を整理するツールが提示されています。

一方「育鵬社」では、各時代のまとめとして「歴史のターニングポイント」というページがあり、考えを深める問題解決的な学習が設定されていますが、考える時の資料があらかじめ用意されており、考えが偏るといった懸念もあります。

次に、観点⑤については、図版と本文のバランスが良く、地図やグラフがカラーユニバーサルデザインに対応した配色になっているため見やすく、78 ページや 98 ページのように比較して使いたい資料等が大きく載せられているのも良いところです。特に、106 ページから 109 ページは、大判で臨場感のある読みとりができます。また、32 ページや 250 ページのようなデジタルマークのついている資料については、5 ページのQRコードを読み取ることにより、ウェブページでの資料の閲覧が可能になります。さらに、294 ページにテーマ別さくいんがあり、学んだことを効率よく振り返り、現代の諸課題の成り立ちや変遷を調べることができるように工夫されています。

一方、教育出版では、全体として写真資料が多く掲載されていますが、質感がザラザラしており、手触りを気にする生徒も出てくることが予想されます。また、「学び舎」では、小単元の単元名が生徒の関心を引き出す印象的なものになっていますが、一方で学習のめあてを示しにくいとの見解もありました。

最後に⑥の観点については、「地域に学ぶ」と題して身近な地域から歴史を学ぶことのできる事例を日本文教出版 85 ページのように紹介しています。他社においても同程度の内容でした。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「日本文教出版 中学社会 歴史的分野」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

本を開いたときに一番安定しているのは、日本文教出版。歴史と地理は常に一体的であると考えたときに、リンクしながら学習していけるのは日本文教出版。人から学ぶ歴史という観点からも、「先人に学ぶ」や「女性コラム」もあり、そこも評価のポイントであった。

○久家委員

各表題の横に「見方・考え方」があり、子どもたちも勉強しやすいのではないかと感じた。紙が白く、見やすかった。

○安倍委員

歴史だけを学ぶのではなく、そこからどう社会が動いているのかなど全体像を見ていく、総合的に学んでいくという点で日本文教出版が素晴らしい。強調文字や写真など、ユニバーサルデザインという点においても一番わかりやすい。

説明にもあったが、余裕をもって授業ができるということ、時間の余裕という観点も大事なので、その視点を外していないところも評価できる。

○西田委員

日本文教出版は、余裕をもって授業を終えることができる。余った時間を深めることに使えるということは、歴史の授業では大事だと思う。子どもたちが、学んだことから興味を持って自分から調べていくということにも繋がっていくのではないかと。日本文教出版が良いと思う。

【採 決】

社会科「歴史」は、日本文教出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書 社会科「公民」

【事務局説明…学校教育課】

中学校社会公民では6社の検定教科用図書があります。

自由社については1冊しかありませんので回覧します。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 新しい社会 公民」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

東京書籍と他社の教科書を比較する形で観点別に説明させていただきます。

はじめに観点①の項目についてです。

東京書籍の7ページをご覧ください。そこでは「探求課題」として「持続可能な社会に向けて私たちに何ができるのか」と問いかけています。授業者も生徒も第1章全体を貫いたこの「問い」を共有しながら学習を進めるように構成されています。この「探求のステップ」に沿いながら各授業でグローバル化であったり情報化社会であったり文化や宗教を取り上げています。それぞれの学習を進めながら、共通の「持続可能な社会の実現」という問いに向き合う構成となっています。このような単元を貫いたテーマ設定は他社の教科書にも取り入れられています。ただ、「章全体を貫く問い」の内容を比較すると「現代社会と文化の特色をとらえる」として教育出版や帝国書院よりも「持続可能な社会の実現」というSDGsの視点で単元内容が構成されている東京書籍の学習内容が生徒に理解されやすいのではないかと評価になりました。

次に観点②については、東京書籍にB評価をしております。その理由ですが、扱う語句や資料の多さがあげられます。1つひとつは丁寧に扱われてはいますが生徒が意見を交流したりする時間や、資料をじっくり読み込むことができる時間が確保できるのかと

こうした点を踏まえ、観点④については東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版をA評価としています。

次に観点⑤ですが、東京書籍では多くの資料や色彩が使用されており写真や図表が大きく見やすく読み取りや活用の力を高める内容となっています。

日本文教出版では 50 ページのバリアフリーを取り上げた内容では凹凸のある点字を掲載し、実際の点字体験ができる工夫も高評価でした。

また育鵬社については資料の分量はやや簡素な感もあるが活用には十分であるとの評価となりました。

逆に自由社では統計資料(グラフなど)が少ないことで様々な思考の根拠になりにくいとの評価になっております。また教育出版では図表やグラフは大きくて見やすいが、やや多すぎる面もあり授業者が活用資料を授業ごとに選んでいく必要があること、帝国書院は写真、資料、図表などの視覚教材がバランス良く配置されていて見やすい(章)の導入部は全てイラストを使っており面白いが、興味本位の学習で終わってしまうのではないかと考えました。このようなことから観点5については東京書籍、日本文教出版、育鵬社の3社をA評価としました。

最後に観点⑥の項目ですが、どの教科書も滋賀県や身近な地域を資料や教材として特に取り入れているという点はありません。ただ東京書籍については国内、国外の記事を問わず中学生をはじめとした自分と同年代の人たちの写真や挿絵が多く、様々なニュースなどが身近なものとして捉えやすくなっているのが他社と比べて特徴となっています。こうした点から東京書籍のみをA評価としました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 新しい社会 公民」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

情報が最新で豊富であるのは東京書籍。また、公民は常に最後は自分がどうしていくのかということ、それぞれの項目で自分に置き換え、社会との関わりを高めていき、深めていくことができるようになっている。開きやすい。

○安倍委員

東京書籍は、現代社会、今をどのようにとらえていくのかということを知ること、気づくことをしっかりと伝えている。また、視覚教材がわかりやすい、見やすい。写真の大きさによって強調するもの、補足するものを変えているところもポイントである。持続可能な社会に対し、しっかりした視点を持って様々な角度から作られている。

○西田委員

東京書籍は、ワンチャート等思考ツールが、非常に充実している。こういう考え方もあ

るという様々な考え方が学べ、良いと感じた。

【採 決】

社会科「公民」は、東京書籍の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

休憩 10:25～10:40

◆中学校教科用図書 社会科「地理」、「地図帳」

【事務局説明…学校教育課】

中学校社会地理では4社、地図では2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、地理では「帝国書院 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」の教科用図書を、また地図では「帝国書院 中学校社会科地図」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

それでは、まず、地理から説明します。

観点①につきまして、各社とも発達段階に応じた学習内容・課題設定となっています。特に、東京書籍は15ページにあるように地理的な見方・考え方を活用する場面「見方・考え方」のコーナーがあります。帝国書院は、巻頭7ページで概要を説明し、185ページのように各章・各節のまとめで、「地理的な見方・考え方」をもとに説明する活動が発達段階に応じて適切に示されています。日本文教出版は、各授業の中で、学習課題とともに必ず「見方・考え方」のコーナーを設定しており、5つの視点が示されるとともに、学習活動が具体的に明示されています。

この3社はA評価としました。

観点②につきまして、東京書籍は本文が精選されており、学習のまとめでは、基礎・基本の定着とともに、これまで学習した内容を地理的な見方・考え方でとらえる活動が具体的に示されています。帝国書院は、単元のはじめに設定している問いがまとめの学習でも用いられており、筋の通った学習の流れが明確にわかります。教育出版は、124・125ページで、本文の書き出しは白豪(はくごう)主義となっていますが、さし絵との関係がわかりにくいものになっています。日本文教出版は現在の他地域との関係が他の3社にくらべて少ないものとなっています。この観点では、総合的にみて教育出版をのぞく3社をA評価としました。

観点③につきまして、自主的・自発的な学習と家庭学習との関わりも考えられますが、教育出版は、巻頭Ⅳ(4ページ)で、「地球的課題とSDGs(持続可能な開発目標)」が示され、それに関連して、世界の諸地域の学習ではそれぞれの地域の学習のまとめ段階で「地域から世界を考えよう」、日本の諸地域の学習では同様に「現代日本の課題を考えよう」という内容で1ページを使い、現代的な課題を考えられるように構成されています。129から132ページにかけての「オリンピック」「宇宙」「世界遺産」と地図をからめた内容は現代的な課題を取り扱っているもので生徒の関心を引き出すものであると考えます。

85 ページのように各所に配置された学習コラム「地理の窓」では、生徒の関心・意欲を高めることがらを取り上げ、生徒が地理の学習に自主的・自発的に取り組むようにしています。A 評価としました。

観点④につきまして、各社とも授業のはじめに適切な「学習課題」が設けられており、資料をもとにした問題解決的な学習・言語活動の活性化ができるようになっています。ただ、その中でも、東京書籍は「読み取る」「集める」「まとめる」のコーナーが各所に配置され、112・113 ページのようにまとめ活動には「みんなでチャレンジ」のコーナーがあり、そこでは「思考ツール」の紹介といった、言語活動を活性化させる工夫が見られます。帝国書院は、各授業のまとめには、質の高い発問の記述した「説明しよう」のコーナーが右ページの右下にあります。また、世界や日本の諸地域のまとめには、学習活動のステップが設定されており、言語活動を活性化させる工夫がみられます。A 評価としました。

観点⑤につきまして、特に、東京書籍については、本文の部分と資料の部分ではベースの色を変えていたり、資料および図表の色合い、文字の形がユニバーサルデザインに配慮されたりしています。素晴らしい発想だと考えます。ただ、4社とも表現表記は読みやすく、写真やさし絵・統計資料も鮮明です。A 評価としました。

観点⑥につきまして、教育出版は、QRコードが 5 ページにあります。212 から 213 ページにかけて、「琵琶湖の水の利用と環境」として1時間単位で、滋賀県の環境に対する取り組みが扱われています。滋賀県の中学生が地理を学習する上で、身近な地域や身近な生活を学ぶには、たいへん重要な内容です。

帝国書院は、近畿地方の学習の中で、「琵琶湖の水が支える京阪神大都市圏」というテーマで、滋賀県の環境に対する取り組みを含んだ内容が扱われています。左上の琵琶湖疎水の写真は琵琶湖と京都との関係を知り、人間が自然をうまく開発した例としては適切であると考えます。また、QRコードについては、アジア州を例にあげさせていただきます。単元のはじめの 50 ページと単元のまとめの 64 ページにあります。50 ページのものは、NHKの中学生向けの動画をみることができます。これからのICT環境の整備に伴って、生徒の家庭学習に役立つものと考えます。

他の2社も、地域や身近な生活にふれているものの特徴的なものと言えませんでした。結果的に教育出版と帝国書院をA 評価としました。

このようなことから、地理については、総合的に判断し、調査研究部会から「帝国書院 社会科 中学生の地理 世界の姿と日本の国土」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

次に、地図帳においては、結論から申し上げますと、帝国書院が優れていると考えます。

観点①から観点④につきまして、両社とも同じ評価となりましたので、観点⑤と⑥について比較します。

観点⑤につきまして、両社とも写真や資料は豊富で鮮明です。東京書籍は文字や配色が、ユニバーサルデザインに配慮されたものとなっており、刺激が少なく、学習に集中しやすいものとなっています。教科書のサイズと地図帳のサイズが同じです。一方、帝国書院は、地図帳のサイズが教科書に比べて大きく、情報を細かな部分まで読み取りやすい。大きさの違いで、教科書との区別は明確です。日本の地図について、田や果樹園などの土地利用を色分けするとともに、地図記号を重ねて記載しています。帝国書院をA評価としました。

観点⑥につきまして、東京書籍は165ページには日本各地の郷土料理の中に、ふな寿司の写真が掲載されており、生徒が滋賀県の文化に目をむける配慮が見られます。帝国書院は、105ページに琵琶湖に関する資料が掲載されており、琵琶湖の水利用や透明度の変化が理解できるようになっています。186ページに、滋賀県の手話表現が紹介されており、生徒に広く社会をとらえさせようとする配慮がみられます。QRコードのことも含め、A評価としました。

このようなことから、地図については、総合的に判断し、調査研究部会から「帝国書院中学校社会科地図」を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

歴史の時にも話したが、歴史と地理を一体の中で考えるという視点で学習が進めていけるのは帝国書院と感じた。他の分野とのリンクを意識しながら学習していくには有効である。また、地理は地元、地域との関わりが子どもたちにとっては気になる部分である。琵琶湖を中心とした近畿圏の姿が示されており、身近に感じるのではないかと感じた。

○久家委員

滋賀県の琵琶湖がたくさん書いているのは帝国書院。地域ごとにQRコードが載っており、単元の終わりに見開きで学習の振り返りがある所がよかった。

地図帳については、帝国書院が大きい分、細かいところが見やすい。地図帳は見やすいのが一番である。

○安倍委員

地図帳については、滋賀県の手話表現が紹介されており、嬉しい。障がいの子も健常の子どもとともに学ぶという点でよかった。両社ともに滋賀を一望する部分が全部切れているところが残念だった。

地理については、子どもたちが自分で振り返る、話し合っ考える、自分に取り込んでいくというアクティブラーニングの視点をもってしっかりと提示されている点で帝国書院が優れている。

○教育長

近畿を中心という点では、両社とも滋賀県は切れている。滋賀だけでなく大阪以外は全部切れている。

しかし、中部地方から見た時の滋賀を見てみると、帝国書院は、滋賀が中部地方に必ず隣接しているが、東京書籍では、滋賀の北部は中部地方とのつながりがあるにも関わらず、描かれていない。帝国書院は、中部地方と隣接している点は評価できる。

○安倍委員

学ぶ時に、別資料などで、滋賀県の全容が見えるよう補助していく必要があると思う。

○西田委員

地理について、各節の学習を振り返ろうということで、学習のキーワードが載っている。どの程度自分が理解できているのか、自分でチェックできることは大事であると感じる。この点は、教育出版、帝国書院ともに良かった。加えて、帝国書院は、課題に対する説明があり、きちんと生徒の考えが引き出せるという部分でより素晴らしい。

【採 決】

社会科「地理」は、帝国書院の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

「地図帳」は帝国書院を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「理科」

【事務局説明…学校教育課】

中学校理科では5社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「啓林館 未来へひろがるサイエンス」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

東京書籍と大日本図書、啓林館の3つに特徴がありどの調査員にも高い評価を得て、最終的にこの3社にしぼってその中の一つを推薦させていただくことになりました。この3社について2年生の教科書を中心にご覧いただきながらご説明を申し上げます。

まず、大日本図書の2年生の教科書をご覧ください。2 ページの目次をご覧ください。単元に番号が振られていて単元1～単元4と表記されています。他の出版社のものも同じことが言えるのですが、単元に数字が打たれているために各校で教育課程を編成する際に柔軟性が失われてしまうことが懸念されます。次に 82・83 ページをご覧ください。「生物の体のつくりとはたらき」の単元の始まりですが、小学校からこれまでに学習したことがつながるように示されています。そして、これから学習することが掲載され、見通しを持って学習に臨むことにつながります。次に 85 ページをご覧ください。植物と動物のつくりの違いを調べる観察ですが、目的、着目点、そして方法、最後に結果の整理と順を追って探求の流れをわかりやすく示し、ページの一番下に「結果から考えよう」の項目が

あることで生徒同士の意見がかわしやすくなっています。続いて 88・89 ページに結果の例となります。写真や図がバランスよく配置されていますが、教科書自体の大きさがコンパクトなためかやや本文の字が小さく、文が詰まった感じがします。また、写真も小さめで場合によっては不鮮明な感じを受けることもあり、生徒に分かりにくさを感じさせるのではという意見がありました。

では、次に東京書籍の教科書です。6 ページの目次をご覧ください。大日本図書と同じように単元に番号が振られていて単元1～単元4と表記されています。単元に数字が打たれているために各校で教育課程を編成する際に柔軟性が失われてしまうことが懸念されます。隣の 7 ページには、インターネットを活用した学習ができるように QR コードが載っています。ICT 機器の活用で実験の様子や簡単には目にできないものを学習するために、理科ではたいへん有効なものです。めくっていただいて 8 ページをご覧ください。「気象の継続観察」について資料があり、その 8 ページの右下に四角の枠に D「使い方や見られる内容は、7 ページを見よう。」とあります。7 ページに戻りインターネットが使えることがわかるしくみですが、8 ページの下の他の文や絵に混じった「D」の小さい表示ではわかりにくく、7 ページの一覧に戻らなければならないところも時間がかかってしまいます。次に 98・99 ページをご覧ください。「生物のからだのつくりとはたらき」の単元で「細胞」のつくりを学習する場面ですが、先ほどの大日本図書と同じように写真が小さく少し不鮮明な感じを受けます。

では、ここで同じ 2 年生の教科書で啓林館の 8 ページ、9 ページをご覧ください。同じ「生物の体のつくりとはたらき」の単元で「細胞」のつくりを学習する時間ですが、大きめではっきりとわかりやすい「細胞」の写真が目飛び込んできます。理科では、こうした教科書の写真から普段は見られないものを学習する機会が多いですが、それに適した表現がされています。

もう一度巻頭からめくっていただいて 7 ページの目次を見ますと、4 つの単元に番号は振られておらず、大きく「生命」「地球」「物質」「エネルギー」に分かれています。これは、1～3 年とも同じ分け方になっていて、3 年間のつながりが意識され、また、学校独自の教育課程の作成に配慮されています。これもこの出版社だけの特徴です。そのまま、8 ページもご覧ください。ここには発展やコラムのページ数もすべて掲載され、探しやすくなっています。15 ページの真ん中には「表現してみよう」として自分の言葉で説明できる図の書き込み欄が付いています。さらに下のほうには「深めるラボ」というコラムが QR コード付きで掲載されています。タブレットが一人一台必要となってきた現在の現在には、自分で学ぶために便利な仕組みだと考えます。このコラムや QR コードの数においてもこの啓林館のものが一番多かったことも付け加えておきます。

では、最後にさらに親しみやすさという点から、関西の写真や話題がいくつ載っているかも調べてみたところ、東京書籍は 3 つ、大日本図書は 6 つ、それに対して啓林館は 20 か所もありました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「啓林館 未来へひろがるサ

イエンス」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

インパクトの強い鮮明な資料も含め、掲載されているのは啓林館。

教科書の順番通りに進めていく時代ではない。市域のカリキュラムや時期や季節に応じて進めていく時に啓林館の構成が最も使いやすいと感じた。

○教育長

3社に絞られているが、大日本図書と教育出版は A の数も同じである。

○学校教育課

東京書籍、大日本図書、啓林館の3社に絞ってと研究部会より確認している。

教育出版と大日本図書は A の数が同じであったが、評価としては大日本図書の評価が高く、3社に絞る段階で教育出版は外れた。

○教育長

啓林館の評価が最も A が多いので、最終判断はよいと思うが、3社に絞る必要もなく明白だった。

○安倍委員

啓林館は感動した。未来へ広がるということが、視覚で学年を通してどのように深めていくのかということがはっきりわかる。しかも、滋賀県に関わりの深い分野にしっかりと扉を開いていただいたと思った時、目に飛び込んできた時に感動があった。理科を学んでいく子どもたちにとって感動で開いていくという提示の仕方が素晴らしいと感じた。

【採 決】

理科は、啓林館の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「外国語」

【事務局説明…学校教育課】

中学校外国語では6社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「東京書籍 NEW HORIZON English Course」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

6社の中で東京書籍、光村、開隆堂がバランスよく構成されており、中でも東京書籍の New Horizon が観点6項目においてすべて A 評価となりましたので、東京書籍の説明を中心に光村、開隆堂の2社を比べたいと思います。

まず、小中連携の視点では、各社1年生の前半に工夫が見られ特設的な扱いが多くなっています。それに比べると、東京書籍の New Horizon では1年生の前半に Enjoy Communication が各ページに設定されており、小学校英語との接続が重視されています。

次に、言語活動のバランス(聞く・話す・読む・書く)では、東京書籍が様々な活動が総合的に準備されており、授業を通して総合的に育成できると考えました。

また、東京書籍は「小学校の単語」を別に示しており、中学校の新出単語特別がつけやすく、学習しやすくなっています。復習なども分けて取り組めるようになっています。

内容の組織、配列、分量が適切であるか。については、配列については各社若干の違いはありますが、流れとしては各社、教えるにくさや学ぶにくさは感じられません。

分量は英語学習においては非常に重要です。東京書籍は紙面を大きく使える分、圧迫感がなく、分量も適切であると思われる。具体的には、1年では、東京書籍 22 から 25 ページを見ると分量は適切、光村 66 から 69 ページを見ると分量は少ない、開隆堂 56 から 57 ページをみると分量は多いとなっています。

現代的な課題が扱われ、道徳的価値の理解に関わり自主的・自発的な学習に結びつくものであるか。

については、どの教科書も工夫されているが、中でも東京書籍は多岐にわたりバランスが良いと言えます。環境 防災 AI 国際平和 エネルギー問題 偉人 世界遺産 などです。

表現、表記、および資料、図表、写真、さし絵などが適切かつ正確であり、創意工夫があるか。については、東京書籍のみ A 版使用 紙面にゆとりがあり、たくさんの情報を入れつつ圧迫感はありません。

光村は絵がメインで、開隆堂は写真が豊富で図表が少なめ、東京書籍は、写真が豊富で絵も細かく丁寧 Grammar for Communication のページが見やすく予習・復習に活用しやすくなっています。

巻末資料については、開隆堂は切り離して使うカードなど工夫しているが、保管など扱いにくく見開きページなどはあまり意味がありません。光村は、文法のまとめなどを配置し、テーマごとの Q&A はサイズも違って使いやすくなっています。東京書籍はボリュームがあり見やすく、内容も豊富で理解のために絵が効果的に配置されています。

その他、自学自習のための準備として、QR コードは3社とも使いやすくなっていますが、とくに東京書籍は目次ページの QR コードで参考映像が見やすくなっています。

CAN-DO リスト 振り返り・たしかめについては、東京書籍は最終ページに学年別で非常に見やすく活用しやすく、光村は学年別に関連するページが見にくく、前後のつながりが分かりにくい、開隆堂 は全学年同じように、数ページにわたるため見にくく項目も細かすぎて活用しづらいです。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「東京書籍 NEW HORIZON English Course」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いた

いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

これからの教科書は、A4 判が子どもたちにとっても見やすい。東京書籍は、空間もあり、配置が見やすい。また、小学校教育との接続を考えたときに、コミュニケーションを図りながら、英語を楽しんでいるという様子がわかりやすい。ストーリーが想像できる挿絵が効果的である。

○八耳委員

小学校の英語から中 1 の英語にスムーズにつながっていくかということに視点をあてると、ユニット^{ゼロ}0から始まっている点からも意識されていることを感じる。中学校と小学校の大きな違いは辞書の使い方。東京書籍は、早いタイミングに辞書の使い方が書かれているという配慮があり、印象的だった。

○久家委員

小学校の単語が、ページの下に載っており、小学校で習った単語をここで活かそう！というような感じが良かった。

【採 決】

外国語は、東京書籍の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「数学」

【事務局説明…学校教育課】

中学校数学では7社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「大日本図書 数学の世界」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

まず初めに、大日本図書の評価・特徴を説明させていただきます。1年の教科書22ページをご覧ください。1時間の授業内容が概ね見開き1ページになっており、最初に「考えよう」でその時間の課題が示され、「めあて」も明示されており、何を学習するかが明確になっています。

基礎・基本の確認・定着についても、各項の中にある「Q」に加え、40ページにあるような「たしかめよう」、62ページにあるような「1章をふり返ろう」、286ページにあるような巻末の「補充問題」があり、基礎的・基本的な知識理解や技能を定着させたり、また、学習したことをふり返る機会が豊富にとられています。

次期学習指導要領の1つの理念であります「対話的で深い学び」に関わってですが、59ページにあるような問題発見・問題解決の過程を示したものが各章に設けられ、その内容も身近なものや興味がわく内容になっています。

自学自習という点では、丁寧に「例」を示し、予習などにもしっかり対応しており、また、58ページにあるように確認問題を解くときに、既習事項がどのページにあるかがサイドノートの的に示されています。

新しく入ってくる「箱ひげ図」については、各社ともその良さを表すのに工夫していましたが、2年の教科書175ページ「学びにプラス」で示されているように、箱ひげ図と Histogram の関係が一度で見られるような工夫がしてあり分かりやすかったです。

これらの特徴により、この教科書が生徒にとっても教員にとっても使いやすいということで、一番の評価をつけさせてもらいました。

大日本図書の次に、評価が高かったのが4社ありましたので、その特徴を簡潔に説明します。

東京書籍は、生活に密着したものや実際に体験する場面をとらえたものがあり、興味のわくものになっているのですが、新しく入ってくる「箱ひげ図」に関しては、1時間のページ配分がまちまちで授業時間の区切りがつけにくいように思われます。

学校図書は、章の初めに身の回りや生徒の興味を持ちそうな内容、数学的事象でその章で学ぶことの意識付けができるようになっていますが、基礎・基本の確実な定着のための「例」や「問い」の量がやや多いように思われます。また、全体的に色遣いがシンプルで見やすくなっていますが、図、写真が少ない印象でした。

数研出版は、この会社の最大の特徴として、深い学びのために課題が分冊になっていることです。しかし、教科書の全体の印象としては、おろそかにしがちな文字の使い方の指導を丁寧に行ったり、「学びの自己評価」が設けられていたり、細部に丁寧さが見られますが、難易度の高い問題が多く、使いにくいように思いました。

日本文教出版は、1年教科書13ページのように各章に入る前に、小学校や前学年の既習事項が配置されていてつながりがわかりやすくなっています。しかし、1時間の区切りのページ数がまちまちになっており、使いにくさを感じました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「大日本図書 数学の世界」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

好き嫌いや個人差が大きい教科の一つである。大日本図書は、個が応じていきやすい、親しみやすい教科書と感じた。

子どもたちが、よくつまずく2年生の「証明」の部分では、どこが視点で何を考えたらよいのか示されており、穴埋めがあるなど分かりやすい。生徒が自ら応じていけるような工夫がある。

中学2年生から新しく「箱ひげ図」を学習するが、身近な生活事象の中から「箱ひげ図」のイメージに繋げていけるよう、小学校でやってきた表の取りまとめ方から新しくこういう方法もあるんだよという流れを感じる。イラスト等見ると、知識や答えさえ出ればよいということだけでなく観点③にある心を育てていく道徳的価値の部分でも配慮がなされている。

○安倍委員

数学は、数だけではない。生活している社会の世界から数学に導いていくというのが大日本図書。素晴らしい。点字を生んだブライアンのことについても、数学はこんなに深いのかと探求心を持って数の世界に広がりを感じた。また、説明にもあったように、考える、確かめる、振り返るの3本柱があることも良かった。

以前、各校を巡回した時、分からないことが分かるのはとても嬉しいという話をしていた。その一方で、分かる子はずっと待っているという話もあった。その点でも、もっと知りたい、もっと分かりたい生徒にとっては次に進める工夫があり、生徒にとっても、教師にとっても素晴らしい。

○西田委員

大日本図書のプラスワン、力伸ばそう、総合問題は興味深い。中3の総合問題を自分でも解いてみたが、面白い問題、良い問題がたくさんあった。

○教育長

学校図書は、ここにいる委員全員分の冊数がなく、1冊しかない。

数が揃っていないということは、滋賀はこれまでの経緯等により、採択されないとあきらめているかとも思える。

○学校教育課

調査研究員にはすべて配られているが、市には1冊のみであった。

○教育長

色々な教科書を見ることは大事なので、話をした。

【採 決】

数学科は、大日本図書の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

休憩 11:50～13:00

◆中学校教科用図書「技術」、「家庭」

【事務局説明…学校教育課】

中学校 技術・家庭では3社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、技術・家庭とも「開隆堂 技術・家庭」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

開隆堂の良かった点を評価項目に沿ってご説明させていただきます。

まず観点①および②についてですが、どの教科書も新学習指導要領に基づき、領域ごとの流れが十分配慮されていると感じました。また単元ごとに学習目標が分かりやすく明示されておりました。その中でも開隆堂については、さらに「調べてみよう」という項目で、学習目標をよりわかりやすい言葉に置き換え、授業導入時の参考になるよう記されています。

例を挙げますと、技術分野、開隆堂 162 ページをご覧ください。電気機器の安全性について書かれたページです。上に学習の目標「**枠**」がありますがその下に、「調べてみよう」として「**枠**」があります。このように生徒にとってわかりやすい言葉に置き換えて示され、自分で学習を進める際の参考にもなります。

観点③についてですが、昨今の社会状況の変遷、情報技術の発達などについて各社うまくまとめられていました。その中でも開隆堂の良かった点を挙げます。

家庭分野 173 ページを開けてください。ここではある公立中学校の制服選択の話が挙げられており、性別に関係なくスカート、ズボン、またリボンかネクタイかが選べます。そのほかにも18歳成人、外国籍の方や、高齢者、そして SDGsについて詳しく取り上げられており、様々な人の立場に立った説明がなされています。

技術分野では情報モラルや森林資源問題について一番詳しく書かれており、ディベートやグループ学習の題材には最適だと思われます。

観点④については「話し合ってみよう」「参考」「実験」などの項目がたくさんあり、その中でアクティブラーニング的な活動が紹介されており、生徒自らが考える材料がたくさんありました。例を挙げますと技術分野 29 ページ、39 ページです。いずれも身近な物事を中心に取り上げられており、簡単な実験を導入とし、話し合い活動には最適な内容だと思います。

観点⑤については、家庭分野の教科書で例を挙げます。開隆堂 118 ページと東京書籍 74 ページをご覧ください。どちらもハンバーグの調理説明です。東京書籍のほうは字が細かく、たくさんの情報できっちり詰められており少々見にくさを感じます。一方、開隆堂は情報量や文字の大きさが適当であるので、空白を適度に設けることができ、見やすいと思いました。その結果、視点を定めやすくなることにもつながります。また、図やグラフ、資料の配置も的確で、比較対象は大きさや色をそろえるなどの工夫がされておりすっきりしています。

観点⑥については各社とも大差なくまとめられていました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から技術・家庭とも「開隆堂 技術・家庭」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

資料の調査研究の経過の欄が、他科は詳しく記載してあるが、日にちと場所の記入し
かなく、各項目に評価の記載がない。気になるので確認してください。

技術と家庭は同じ出版社が望ましいのか。

また、調査研究においては、出版社ごとにしていただいたのか、まとめてしていただ
いたのか。

○学校教育課

技術と家庭の教科書会社を合わせる必要はない。

ただ、滋賀のすべての採択地区で同じ出版社のものを使用しているのが現状ではあ
るが、調査研究の結果、このように同じ出版社となった。

○教育長

評価は別か。技術と家庭において、研究部長が同じではおかしいのではないか。

○学校教育課

評価は技術、家庭で分けられている。部長は異なってもよい。

○八耳委員

開隆堂 家庭分野の 資料の 採択方針による調査研究結果 観点⑤には、「やや
文字が小さい」「見づらい」という結果が出ているのに、評価が A になったことに少し違
和感がある。この根拠が知りたい。

○学校教育課

総合的に判断してのことである。

○教育長

前半部分はわかりやすい、見やすい。後半部分から気になる部分もあるという
ことで考えていただきたい。

○安倍委員

調査研究の場所が給食センターだが、特に家庭には適した場所と感じた。においや
人の動き、五感を通して、技術家庭をどのように捉えるのかという先生方の感性がここに

表れるのではないか。

技術は男、家庭は女と昔は分かれていたが、今は違う。技術も家庭も、みんなが身につけるとい時代である。表紙だけを見ていると、教育図書は男女共同参画のもと、男女の区別がなく、しっかり伝えてくれているように感じた。

しかし、ページを開き、中を見た時に、開隆堂は、男も女も一緒に勉強するが、男がしないといけない、女がしないといけないということではなく、出来ないことはお互いに教え合おうという男性女性の在り方が優しい。新しい生活の見直し、生活の方法を生み出すというコロナが教えてくれた生活を変えていくということに繋がっていく教科書なのではないか感じた。

○西田委員

開隆堂の家庭は、調理実習のところにアレルギー物質が含まれるもの食べ物が表記されている。子どもたちが意識をもって調理ができる部分で、大切なことではないかと感じた。

○安倍委員

幼児との関わりという部分が 30 ページにわたり書かれている。幼稚園、保育所、こども園に職場体験で生徒が来てくれる時に、自分たちもこんな風に育ててもらったという親への感謝の気持ちやこんな風に愛されてきたと感することによって、子どもたちが言葉を豊かにしている、嬉しい内容であった。

【採 決】

技術は、開隆堂出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

家庭は、開隆堂出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「保健体育」

【事務局説明…学校教育課】

中学校 保健体育では4社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「大修館書店 最新 中学校保健体育」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

新学習指導要領により、評価の観点4つから3つになること、保健分野において、3年生で学習していた内容が、1年生や2年生で学習することになることなどを重点とし調査しました。

6つの観点到添って調査した結果、大日本図書と大修館書店が他社より優れているという評価でした。

どの図書も、見開き2ページで1時間の授業という構成でした。しかし、大日本図書の16・17 ページをご覧ください。大日本図書は、左ページに説明文、右ページに資料とな

っています。生徒が学習しやすい工夫がされていました。また、大修館書店の 18・19 ページをご覧ください。大修館書店は、ページの内側に説明文、説明文の周りに資料となっています。

大日本図書、大修館書店ともに構成がパターン化されているところが特徴的で、ここを見れば説明文、ここを見れば資料と、特別な配慮が必要な生徒にとっても、混乱なく学習が進められる工夫が見られます。

大修館書店の 24 ページをご覧ください。この「保健の窓」には、気づきにくい現代的な課題が取り扱われており、普段の生活を振り返るきっかけにしやすい内容となっています。

大修館書店の 26 ページ、大日本図書 28 ページをご覧ください。

大修館書店は、章のまとめに、問題を記載しており、この問題が、新指導要領の3観点に添った問題となっています。問題の量も適量で、この点が他の図書との相違点であり、3観点に添い自主的・自発的な学習を促しやすい表記となっていることが評価の高かった点です。

大日本図書は、学習のまとめが文章表記されており、まとめ問題は Web 掲載となっています。口絵 16 ページの QR コードより大日本図書の Web ページに入り、コンテンツを選択しプリントアウトして使用できます。授業で使用するためには、事前の準備が必要となります。

ちなみに大修館書店の Web リンクは、1 ページの「Web 保体情報館」の QR コードより外部リンクの Web ページに入って情報を調べることができるようになっています。21 ページの下部をご覧ください。Web とリンクした内容が記載されています。この「e-ヘルスネット」は厚生労働省作成の動画につながっていきます。外部リンクの数が多く、生徒に自主的・自発的な調べ学習を促しやすいようになっています。

大修館書店は 21 ページ、23 ページの「学習のまとめ(生かそう)」「学習のまとめ(確認しよう)」の2種類に分け、学習を振り返りやすいよう工夫されています。また、「学習のまとめ(生かそう)」では、課題解決に向けて考えられるような設定となっています。大日本図書 19 ページの「活用して深めよう」と対比してみてください。

大修館書店の方が、生徒にとってより具体的な思考ができるような設問になっています。また、資料の写真やイラスト、表もバランス良く配列されており、コラムの内容も生徒の興味を引くよう工夫されています。

他の図書に比べ大修館書店、大日本図書が大変見やすく、学習活動に活用しやすい図書となっています。この2社で比較すると、生徒にとってわかりやすい表現・表記になっているという点と、授業の中で、生徒が「自分の考え方」等を整理したりまとめたり、学習の流れを把握し意欲的な学習活動ができる構成や、学びを活かそうとする構成となっている点で、大修館書店の方が優れているという結論に至りました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から「大修館書店 最新 中学校保健体育」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

大修館書店は、自分の発達(体と心)を考えたときに、ストーリー性ととも、自己形成の部分が非常に分かりやすく書かれている。いじめという問題も、体と心と考えたとき、内藤氏の「いじめられている君へ」が心に染み入るメッセージであった。いじめを道徳と同時に、保健体育の中でも学んでいくという考え方が嬉しい。

また、市レベルで頑張ろうとしている「早寝・早起き・あさ・し・ど・う」の内容もあり、その部分でも近江八幡市にピッタリ合っていると感じた。

○西田委員

大修館書店は、章の終わりに章のまとめの確認問題がある。大日本図書は、学習のまとめはあるが、問題がない。インプットしたことをアウトプットして初めて自分のものになるのではないかと思うため、確認問題がある大修館書店の方がよい。

○八耳委員

資料の採択方針による調査研究結果が表になっているのがとても見やすい。

保健体育は、いかに動きをWEB等の活用で見られるかということも大事だが、学習が自分の課題として掘り下げることができ、将来の自分の健やかな成長につなげていけることも大切であると感じた。

【採 決】

保健体育科は、大修館書店の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書 音楽科「一般」、「器楽」

【事務局説明…学校教育課】

中学校 音楽一般・音楽器楽ではそれぞれ2社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、一般・器楽とも「教育出版 中学音楽・中学器楽 音楽のおくりもの」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

まず、一般について説明します。

観点③について、教出2, 3年上の 8・9 ページ、教芸2, 3年上の 16・17 ページをご覧ください。どちらも、2年生になり初めて学習する歌唱教材です。教出は、大事なポイントのみをヒントとして提示しているため、先入観なしに楽曲に触れることで、生徒の自発的な活動につながると思われました。このことは、観点④の点から見ても、言語活動の深まりにつながると考えられます。

一方、教芸は、ねらいに迫る丁寧なヒントやサポートが非常に詳しいよさがある一方で、

生徒の考える材料が先に与えられてしまい、自発的に考えを深めたり多様な考えを出したりしにくいと思われる箇所がありました。

次に、観点⑤については、教出では、共通教材のページが特徴的です。「共通教材」というのは、「赤とんぼ」「浜辺の歌」「荒城の月」など、我が国で長く歌われ親しまれている歌曲のことで、各学年で必ず1曲以上扱うように学習指導要領に明記されています。その共通教材ですが、教出1年生の巻頭の「夏の思い出」のページには、教科書を開いた最初のページに、美しい日本の風景が映し出されています。その上、歌詞の情景がイメージしやすいように写真の説明もついています。視覚的にも日本のよさを再認識できると思われます。

最後に、観点⑥については、教出では特に創作で、生徒の興味関心をひきやすい教材が多く見られました。例えば、2, 3年上の26ページをご覧ください。「八分音符」を「ター」「ツク」といった、ドラムの演奏等でも使う、生徒に親しみやすい表現を用いてリズムパターンをつくるようになっていきます。また、地域の名物や名所のCMソングをつくるという、大変魅力的な活動も設定されています。

以上のことから、一般では、教育出版社の方に高い評価をさせていただきました。

次に、器楽の説明させていただきます。

まず、観点②について、教出では、特に、中学校入学直後の時期において、無理がない編集になっているところに親しみを覚えました。例えば、教出6ページをご覧ください。初めて出会うアルトリコーダーの学習の初期に、スモールステップで、最初は1つの音だけで、続いて7ページでは左手だけを使ってというように、アルトリコーダーの低音の音色の魅力を味わいながら、指穴の押さえ方にも十分に慣れ、その後、サミングに入ったりする等、配慮がなされているため、小学校で学習したソプラノリコーダーからの移行がしやすいと思われます。

また、観点⑤について、教出の方が、演奏のために必要な奏法や身体の使い方等の技能を身に付けるための見やすく使いやすい資料が豊富に用いられています。例えば、教出の29ページと、教芸の35ページをご覧ください。どちらもページの下の方に、ギターの右手と左手の押さえ方の説明があります。2社のものを比べてください。教出の方は、指に番号やアルファベットが示されていて、どの指でどの弦を押さえたらよいかによりわかりやすく、ギター初心者の生徒の意欲も喚起しやすいところを評価しました。巻末の見開きでもギターのわかりやすいコード表が入れられています。

ギター以外にも授業以外の場で、また卒業後に、自分でやってみたいと思ったときにも活用しやすくなっているところも優れていると感じました。

以上のことから、器楽でも、教育出版社の方に高い評価をさせていただきました。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から、一般・器楽とも「教育出版 中学音楽・中学器楽 音楽のおくりもの」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○八耳委員

教育出版は、音符だけではなく、背景等で音楽をイメージしやすい。

また、季節感を大切に、季節に沿った内容、情感的な学習が深められる教科書と感じた。音楽のおくりものという表題もわくわくする。

○安倍委員

赤ちゃんの時から最期を迎えるまで、音楽は、大変密着性のある、触れて心が豊かになるものである。音楽を聴いて悲しくなったり嬉しくなったり、歌いながら、自分で体感しながら、教科書を見させていただいた。

また、以前中学校の文化祭を見に行った時に、一生懸命子どもが指揮をする、ピアノ伴奏をする、合唱する、音楽が人と人を繋いでいくということを感じたが、教育出版は、その観点をしっかり捉えてあると感じた。

しかし、「器楽」の教科書において、掲載されている楽器のほとんどが日本の文化や歴史が生んだ楽器であった。曲目も邦楽が多く、ピアノなどその他の楽器や洋楽をどのように捉えていけばよいのかと疑問に感じた。その辺りが分かれば教えていただきたい。

○学校教育課

琴などに触れる授業などは実施しているが、確認しておく。

○教育長

教育出版に、2・3上と2・3下に同じ曲が載っている。イラスト(写真)は違う。違いは三部合唱か四部合唱か。それでよいのかと少し疑問に感じた。奥の深い教科でもあるため、同じ曲があってもよいのかもしれないが。

【採 決】

音楽科「一般」は、教育出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

音楽科「器楽」は、教育出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

◆中学校教科用図書「美術」

【事務局説明…学校教育課】

中学校 美術では3社の検定教科用図書があります。

調査研究部会からは、資料にありますように、「日本文教出版 美術」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

3社とも、新学習指導要領に即した形で内容がよく整理されていますし、指導要領で示された教科の目標にせまるための、様々な工夫がなされており、どの教科書にもそれ

それに優れたところがあり、甲乙つけがたいといった印象でした。

まず、教科書の導入の部分についてです。開隆堂ではキャラクターが登場して解説していて、生徒が親しみやすい構成になっています。光村も「学びの地図」としてわかりやすく解説しているのですが、中でも日文は冒頭のオリエンテーションに多くのページを割いて、美術科への導入の部分を最も重視しており、授業で活動中の写真や図をふんだんに使って美術科で学ぶことへの興味をより喚起しうる内容となっています。最初のページでよく知られているアニメ映画の背景が掲載されていて、生徒にとって親しみやすく、美術を身近に感じられるよう工夫されています。

次に、学習の目標の表記についてです。光村は記述がややおおざっぱでありますし、開隆堂は生徒目線の表現にはなっていますが、あいまいな書き方になってしまっているとも言えます。その点日文は、新学習指導要領で示された、育成すべき資質・能力の三要素にびたりと合致した記述がされており、中学生の発達段階に照らしても、最も適切であると考えられます。また、日文のように、学習指導要領にびたりと合致した教科書は、例えば経験の浅い教師にとっても、指導計画を立てる上で大変有用であると考えられます。さらに、各ページのインデックスについても比較したところ、日文が内容との整合性がきちんととれており、最も使いやすい形になっていると言えます。

続いて、生徒にとって内容がわかりやすく、活動がイメージしやすいかどうか、という点です。授業の中で、生徒が制作や話し合い活動に臨むときにどのようなイメージを持って取り組めばよいか教科書から読み取れる、といった要素も重視したいポイントです。

光村は、美術1 24 ページ、42 ページのように、参考作品について、作者が完成までにたどった制作過程が写真と共に紹介されており、どのような動機からどう発想して、何に気をつけて完成させたか、といったことが具体的にイメージすることができます。大変参考になる内容なのですが、生徒の発想を型にはめてしまう危険性もあるように思われます。

日文は、美術1 22 ページのように参考作品が制作者と共に紹介されていたり、美術2・3下 36 ページのように生徒が話し合っている場面や制作に取り組む姿が数多く紹介されていますので、試行錯誤したり話し合ったりというプロセスが自然と実感でき、生徒が「自分もやってみよう」と思える内容になっています。

掲載されている作品等の写真に着目すると、開隆堂が、中学生が見たときに「おもしろい！」と感じたり興味を持ったりしそうな作品が大きな写真で紹介されているページが多いのですが、作家作品に偏りすぎているところが気になります。

光村の作品写真は、過去に教科書や資料で使われたことのあるものが多く、新鮮さに欠ける印象です。

日文は、他と違って、2・3上 10 ページや2・3下 8 ページのように、生徒作品を大きな写真で取り上げたページが多く、作品の写真は様々なアングルからとらえたものなど、見せ方に工夫が感じられます。一見ごちゃごちゃとした印象の紙面構成ではありますが、

生徒の活動中の写真が3社中最も多く、作品が、作った生徒と一緒に紹介されていたり、美術1 40 ページのように作品を生活の場で活かしている様子をとらえた写真が多いことにより、美術をより身近に感じて「取り組んでみよう」と思わせるような構成になっています。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から、「日本文教出版 美術」の教科用図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

光村図書は、モデリングがはっきりしているので、きっかけという点で、生徒が最初は真似から始めてみよう、そこから発展的に自分のイメージを膨らませていくと考えた時に良いと高評価をしていたが、それが逆に型にはめてしまうという説明があり、発想力を止めてしまうことになるのだとアクティブラーニングの視点から見ていくことが大事だと改めて勉強させていただいた。

○八耳委員

日本文教出版は、3分冊されているので、バランスよく並んでおり、関心を誘うように集約されている。美術は、表現と鑑賞で別々ではない。その点、日本文教出版は、常に見ることと自分で表現していくことが無理のないように配列されていた。

【採 決】

美術科は、日本文教出版の教科用図書を採択することに決定。 全員賛成(5人)

○小学校特別支援学級教科用図書 6年「外国語」

【事務局説明…学校教育課】

小学校 特別支援学級 では3社について調査しました。見本本については、1セットしかありませんので回覧します。お手元には、イメージとして数ページ分をコピーしたものを用意しております。

調査研究部会からは、資料にありますように、「成美堂 はじめてのえいごレッスン」の一般図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

まず、調査研究をする教科については、昨年度からの引継ぎにより6年生英語です。また、それ以外に必要な教科はないかを検討しました。必要な教科の視点としては次の3点です。

1点目、「供給不能の図書はないか」という点については、今年度は、全てが供給可能とのことですので必要はありません。

2点目、「学習指導要領等の改訂等に関わって」という点については、昨年度までに、

道徳などの必要な教科の採択がすでに終わっている所以需要ありません。

3点目に、「現在、特別支援学級で使用している教科用図書で、使いにくい等、不具合はないか」という点については、調査研究員一致で「特には必要ない」ということでした。

従いまして、今回は、「6年生の英語」のみを調査研究することとしました。

選定した図書の1冊目は、「えいごえほん ぞうさん がっこうに行く」です。

良い点として、この本は、滋賀県教育委員会の資料に挙げられており、一日の生活が、ストーリーのあるお話で展開されているので、児童の興味関心を高めやすいです。朝起きる時間(7時)から、下校の時間(3時)までが1冊のお話として構成されています。しかし、残念なこととしては2点あります。

まず、応用的なことへは対応しにくいことです。例えば、How are you? 元気ですか? の返答として、I'm fine しか掲載されておらず、お腹がすいている、疲れた、等の他の気持ちを表現しようとした場合には、別の方法での指導が必要となります。2点目は、発音に関してカタカナで表記しており、太い文字は強く発音する等工夫もされていますが、さらに、CDがついていると、聞くことを通して、発音に親しむこともできる点、本当に惜しいです。

2冊目は、「あそびがいっぱい! はじめてのえいごレッスン」です。

良い点として、アルファベットの学習から始まり、色・形・数など基礎的な英語、身の回りにあるもの、動作を表す英語が段階的に取り上げられており、5年生で使用した「五味太郎のことばとかずの絵本 絵本 ABC」の次の段階として、そして、中学校特別支援学級で使用する教科用図書「JUNIOR COLUMBUS」へのつなぎとして、適しているといえます。

わかりやすい基本的な単語から、やや文字数の多い単語まで記載されているので、子どもに応じて軽重をつけて学習を進めることができます。単語だけでなく、P28 には、気持ちを表す言葉があるので、「ぞうさんがっこうに行く」にはなかった語や表現が学べる点もよいです。また、あそびのページが充実しており、間違い探しやイラストのまねをして動く(座る・立つ・走る・ジャンプをする)など、体を動かすことで楽しく英語が覚えられようになっている点もよいです。

児童の興味関心を高め、楽しみながら英語に親しむことがしやすく発達段階に即した指導がしやすい点もよいです。

各ページには、単語だけではなく、単語を使った簡単な「例文」や「やりとり」が紹介されています。初歩的な英会話を扱った項目もあり、発展的に担任とのやりとりを楽しめる構成になっています。

また、CD 付きなので、正しい発音を繰り返し聞ける点もよいです。

さらに、2019年12月に発行された新しい本なので、取り扱っている物事が、現代の日常生活にマッチしており、自分の生活とつなげて考えやすい点もよいです。文字は、ユニバーサルフォントに近い字体なので、読みやすいです。

3冊目は、「親子でうたう英語うたの絵じてん」です。

歌をとおして英語の音声に関する感覚を身に付け、英語への関心や意欲を高めることができるなど、学習指導要領に示された目標や内容に沿ったものになっています。歌や手遊びに関心がある児童には最適です。見開きで一曲になっており、挿絵の色がきれいで曲の感じがイメージしやすいです。

小学生を対象にした英語の歌が25曲集められている。「きらきら星」「メリーさんの羊」「ドレミのうた」「森のくまさん」「大きなくりの木の下で」「大きな古時計」等の、日本語の童謡としても親しみやすい曲が多数選曲されています。童謡だけでなく、やや大人向けのポップスやフォークソングも積極的に取り入れているため、小学生の幅広い発達段階のニーズに対応できるようになっています。

しかし、難点としては、歌(音声)として耳からの情報が中心となるため、ことば(歌詞)が聞き取りにくい部分もあるということです。教科書というより、むしろ、2冊目の副読本としてなら、よいかもしれません。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から、「成美堂 はじめてのえいご レッスン」の一般図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

総合的な観点を並べると、成美堂だなと感じた。

気持ちをどう表していくのか、確かな形で書いてある点が良かった。ただ、歌で学んだことも自分自身多くあったと思う。歌から入ってくる英語もあるので、また別の資料でもよいので、歌を取り上げてほしい。

【採 決】

小学校特別支援学級6年外国語科は、成美堂の教科用図書を採択することに決定。

全員賛成(5人)

ただし、万一供給されない状況の場合は、第2候補の「えいごえほん ぞうさん がっこうにいく」、第2候補も供給されない状況の場合は第3候補の「親子でうたう英語うたの絵じてん」になることも確認

全員了承(5人)

○中学校特別支援学級教科用図書 1年「国語」、2年「国語」、3年「国語」

【事務局説明…学校教育課】

中学校 特別支援学級 国語 では4社5冊について調査しました。見本本については、1セットしかありませんので回覧します。お手元には、イメージとして数ページ分をコピーしたものを用意しております。

調査研究部会からは、資料にありますように、「同成社 ゆっくり学ぶ子のための国語4および5」「東洋館出版社 くらしに役立つ国語」の一般図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

今回は、平成27年度から採用されており、学校現場からも見直しが必要ではないかと思われている全学年の国語の教科用図書について調査研究を行うことにしました。現在採用されている国語の教科用図書3冊に、調査研究員が候補として挙げた2冊を加えて、調査研究をすすめました。

5冊のうち、まず第3学年で使用する教科用図書を選びました。

結果を申し上げますと、第3学年の教科用図書には「くらしに役立つ国語」を推薦します。6 ページ、12 ページ、24 ページ、100 ページにあるように、自己紹介や電話など、あいさつや会話をする力や表現力を高めるよう社会生活に必要な国語についての理解を深め、活用する力を育てる工夫がされています。学習が進めやすいようにメモの利用や具体例、注意点が示されており、表現力の育成に特に力が入れられ、生徒の発達段階に即して学習が進められるようになっています。また、76 ページ、80 ページでは、物語や詩が、70 ページ、74 ページでは俳句や百人一首が扱われるなど、生徒の読書活動につながる内容も充実しています。文字のフォントや大きさが統一されており、行間も一定で、非常に見やすい作りになっています。関係のある図や表、挿絵も適宜挿入されています。107 ページから 115 ページでは、履歴書や病院の受付・問診票、定期券申込書などが写真付きで詳しく取り扱われています。近年、高等養護学校への進学希望者が増加傾向にあり、卒業後の就職に向けた内容が充実しており、第3学年での使用に適しています。以上の点から、「くらしに役立つ国語」を第3学年国語の教科用図書として推薦しました。

次に、第1学年で使用する教科用図書を、現行の「国語☆☆☆☆」と現在第2学年で使用している「ゆっくり学ぶ子のための国語4」とで比較しました。

「国語☆☆☆☆」は、養護学校で採用されている文部科学省著作教科書で、学習指導要領に沿った内容になっていますが、文字の大きさが中学生にはやや大きく、分量的に少なく感じるものもあります。「国語☆☆☆☆」は第1学年から第3学年、どの学年でも使えるように作られていて、『この学年で使いたい』と考えるとやや物足りなく感じます。「ゆっくり学ぶ子のための国語4」は、言語や文法にかかわる教材が多く取り入れられており、基本的な国語の理解をすすめられるようになっています。8 ページや 14、15、20、21 ページにあるように、「ことばの学習・ことばを豊かに」の内容が読み物教材の間に配置され、学習を進めやすくする工夫がされています。読み・書きを中心に語彙を豊かにする点に力を入れた図書です。読み物教材の分量も中学1年生の学習に適したものとなっています。小学校第6学年では、現在同系列の「ゆっくり学ぶ子のための国語3」を使用しており、継続して学習を積み上げることができると考えます。

以上のことから、第1学年では、「ゆっくり学ぶ子のための国語4」を推薦しました。

最後に、第2学年で使用する教科用図書を「ひとりだちするための国語」と「ゆっくり学ぶ子のための国語5」とで比べ、選びました。

「ひとりだちするための国語」は、5 ページからの基礎編と 90 ページからの向上編(国語力を高めよう)に分け、特にコミュニケーション力を高めるよう組織的に教材を配列しています。しかし、物語や説明文などの読み物教材が扱われていません。全体的に分量が少なく、内容にも深みが欲しいと感じます。

「ゆっくり学ぶ子のための国語5」は、言語表現力を高める内容が、少し手ごたえを持って学習に向かうことができるよう組織的に配列されています。「ゆっくり学ぶ子のための国語4」と同系列の次のステップとなる図書のため、継続的に学習を積み上げることができると考えます。「ゆっくり学ぶ子のための国語5」でも、「ゆっくり学ぶ子のための国語4」と同様に、「ことばの学習・ことばを豊かに」の内容が読み物教材の間に配置され、学習を進めやすくする工夫がされています。「ことばの学習」では、難しい読み、漢字の部首、慣用句などの内容が取り上げられており、身近な活動で直面することばの意味理解の力を伸ばすことができます。

これらの点から、第2学年では、「ゆっくり学ぶ子のための国語5」を推薦します。

このようなことから、総合的に判断し、調査研究部会から、「同成社 ゆっくり学ぶ子のための国語4および5」「東洋館出版社 くらしに役立つ国語」の一般図書を推薦いただき、協議会としても選定いただきました。

【質 疑】

○安倍委員

中学3年生の東洋館出版社 くらしに役立つ国語は、とても学びがある中身が濃い内容だった。

中学1、2年生の同成社の中身は、配慮しながら学んでいくということはわかるが、ゆっくり学ぶということは、教師の配慮であって、子どもたちの思いではないのではないと思った時に、ゆっくり学ぶ子というタイトルに抵抗を感じるので、未来を創造するタイトルが望ましいと意見として述べさせていただく。

○八耳委員

指導者用の教科書なのではないか。指導者用の文言が入っている。

指導者用ということであれば、ゆっくり学ぶ子というのもわかる。

○学校教育課

一体型で、指導者も生徒も同じものを使用していると認識しているが、確認する。

○八耳委員

小学校からのつながりという点で連続性も含めて、それに代わるものとして、調査をしたが、現状のものがよいと判断したということかと思うが、使う時には配慮してほしい。

○教育長

子どもが指導者用のものが掲載されているものを一緒に使っているという点は確かに少し疑問である。保護者が見た時にどう感じるかとも思う。再度第3地区の会議で確認してもらおうということを条件で採決を取る。確認結果については、定例会で回答することとする。

【採 決】

中学校特別支援学級 1年 国語科は、同成社の教科用図書を採択することに決定。

全員賛成(5人)

中学校特別支援学級 2年 国語科は、同成社の教科用図書を採択することに決定。

全員賛成(5人)

中学校特別支援学級 3年 国語科は、東洋館出版社の教科用図書を採択することに決定。

全員賛成(5人)

○教育長

大きく変わったのは3教科。

①社会科「地理」が、東京書籍 から 帝国書院に。

②音楽科が、教育芸術社 から 教育出版に。

③保健体育科が、大日本図書 から 大修館書店(毎回変わっている)

前回、東京書籍が大変多かったという経緯もある。

変更については、出版社で切磋琢磨してもらうことによって、より素晴らしい教科書になるという視点からご理解いただきたい。

8. 閉会 教育長が第1回8月定例会の閉会を宣言